

平成25年度第1回廃棄物減量等推進審議会議事録

期日：平成25年4月30日（火）

場所：多治見市役所4階会議室

出席委員：伊藤会長、谷口副会長、加藤（彰）委員、田中委員、坂崎委員、近田委員、加藤（誠二）委員、林委員、相原委員、白石委員、坪井委員

欠席委員：安藤委員

事務局：水野環境文化部長、岡田環境文化部次長、伊藤環境課長
市川課長代理、田中主査、原主査

議題

- ① 多治見市分別収集計画の見直しについて
- ② 分別収集啓発チラシについて
- ③ 生ごみ処理容器及び生ごみ処理機購入補助制度について
- ④ その他

1 開会挨拶

環境文化部長挨拶

2 議題

議題①

（多治見市分別収集計画の見直しについて、資料に基づき事務局より説明）

概要：容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律によるもの。昨年見直した一般廃棄物基本計画を基に、容器包装に関する部分を抜粋して作成した。

5年間の計画で、3年ごとに見直すこととなっている。各市で作成したものを県へ提出する。期限が6月2日のため、5月下旬には決定したい。

結論：提案のとおりで決定

主な意見

- ・ 施設計画について、今後変更の見込みはないのか。→ステーションの数は、増減があると思うが、収集方法については、今のところ変更はない。
- ・ この計画に陶磁器は、入らないのか。→法で規定された容器包装に係る計画のため、陶磁器食器は入らない。
- ・ ごみ減量協力店について、何か他の表現は出来ないか。
- ・ エコ商品の購入促進について、環境フェアなどで展示して、エコ商品のPRをしたらどうか。→環境フェア実行委員会へ提案したい。

- ・ 1 頁の基本的方向が 4 つ示されているが、2 頁以降の具体的な事項の見出しにそれぞれが明記されていないので、分かりにくいのではないかと。→項目（見出し）については、手引きに添って作成しているのだから、案のとおりとしたいが、記載内容には、方向性や独自の取り組み等をそれぞれ明記したつもりである。

議題②

(分別収集啓発チラシについて、資料に基づき事務局より説明)

概要：分別排出の重要性、ごみ減量及び資源の有効利用について啓発するため、チラシを作成し、全戸配布（広報折込）をしたい。

結論：スケジュールについては、提案のとおりで決定。今回の意見を取り入れて原案を作成し、次回の審議会で審議していただく。

主な意見

- ・ 主として生ごみの減量のことを知らせたいのか。→生ごみだけでなく、家庭ごみ全体を減量したい。
- ・ ごみ処理にどれくらい費用がかかるのかなど、このごみを減量したら、どうなるのかを説明したらどうか。
- ・ 資源の流れを記載するということが、排出されたものが、回収されてどうなっていくのかを記載するのか。→そのつもりである。イラストを使うなどして、わかりやすくしたいと思っている。
- ・ 市の職員が、リサイクルステーションに立っているが、正しく指導していない場合がある。誤ったことが伝わってしまうので、きちんと指導して欲しい。→説明会等で指導していく。
- ・ 一人当たりの生ごみの排出量について、何をどれくらい減量するとどうなるのかということに記載したらどうか。
- ・ A3 判見開き 4 ページぐらいにまとめたらどうか。イラストを入れたらどうか。家庭で壁に貼ってもらえるようにしたらどうか。
- ・ 市民に分かりやすいものを作って欲しい。

議題③

(生ごみ処理容器及び生ごみ処理機購入補助制度について、資料に基づき事務局より説明)

概要：平成 14 年度から 23 年度の 10 年間に生ごみ処理容器及び生ごみ処理機の購入補助を受けた方を対象にアンケートを実施。その結果を踏まえ今後の生ごみ減量策や生ごみ堆肥化の普及啓発について検討したい。

結論：引続き検討していく

主な意見

- 堆肥化以外の活用法を広く募集してはどうか。
- 農産物直売所などを活用して、堆肥を作る人と利用する人が交流（交換）できる場を提供できないか。
- 家庭菜園において、堆肥を使って育てたものとそうでないものがどの程度違いがあるかを具体的に示し、堆肥化のPRをしてはどうか。
- 造園業に、堆肥を利用してもらってはどうか。
- 実際に処理機を使用している人に計量してもらい、「燃やすごみ」がどれだけ減量できるか示してはどうか。
- 市として処理機の普及を進めるのであれば、補助額の増額を検討すべきではないか。
- 処理機が壊れても部品がなくて修理できない場合もあるので、買い換えの補助について検討できないか。

午後15時10分閉会